２０２４年（令和６年）　３月１９日　火曜日

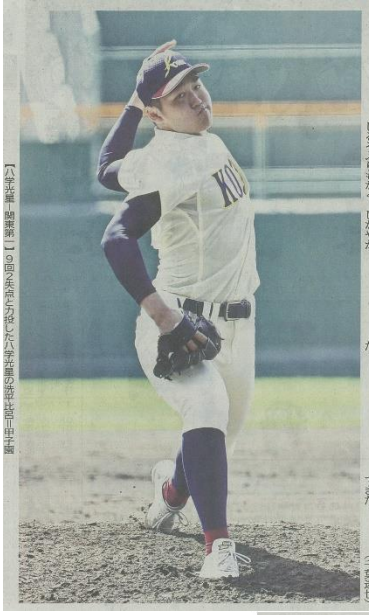
デーリー東北　　１２・１３面　掲載

第96回 センバツ

開幕試合 光星熱闘

延長11回タイブレークで関東第一破る

ダブルエースが躍動



八学光星・関東第一9回の失点を力投した八学光星の先発・比呂中主将

タイブレークの10回裏、ピンチをしのぎカッツポーズでベンチに戻る八学光星・岡本琉奨

ヒーロー

先発洗平、9回を粘投
岡本、強気のリリーフ

昨夏の甲子園を経験しているダブルエースが、粘りの投球で勝利を呼び込んだ。八学光星は洗平比呂が9回9失点で先発の役割を十分に果たすと、プレッシャーのかかる延長タイブレークは岡本琉奨が好投した。白熱の開幕試合ですごみを増した。左腕リレー。岡本は「絶対に抑えてやるという気持ちで投げられた」と満足げにうなずいた。

注目が集まる開幕試合のマウンドでも、臆せず堂々とした姿を感じるそぶりもなく、しなやかに腕を振った。制球を乱し、先制を許す苦しい場面もあったが、「自分の中で最小失点に抑えることができた」。伸びのある直球が光り、156キロの力投で試合をつくった。

熱戦は九回で決着がつかず、延長タイブレークへ突入。十回から5人目の岡本がマウンドへ上がった。

八学光星は裏の攻撃で得点できず、1点も与えられない拮抗に、だが、ここで踏ん張り、10が輝いた。犠打と中堅敵逸などで2死満塁の局面。臆せずカウント強い直球を投げ込み、空振り三振で仕留めた。この回を無失点で切り抜けると、普段のおどおどしさは気配的なガッツポーズを見せてきた。

十一回表に3点の援護をもらった所は、強気の投球で相手打線と対峙した。暴投で1人の生還を許したものの、後続はしっかりと断ち、マウンドで勝利の歓喜を味わった。

昨秋の青森県大会準優勝、東北大会決勝で先発を任された岡本。「問試合ともチームを勝利に導けず、悔しい思いをしてきた」。ピンチでも本領を発揮すべく、冬場はメンタル面を重点的に鍛えてきたという。

「今までの自分なら『打たれたらどうしよう』と思ってしまいたが、その気持ちはミリも無かった。甲子園のマウンドに、頼もしい存在が戻ってきた。」（千葉崇也）

甲子園初打席で大仕事
途中出場の萩原が勝ち越し打

ぎんざん

タイブレークの11回表八学光星1死二、三塁、萩原涼太が勝ち越しの右前打を放つ。投手坂井、捕手熊谷

九回の守備から出場した八学光星の萩原涼太が、甲子園初打席で大仕事をやってのけた。「打つしかないなと思って、狙い球を絞っていった」。延長タイブレーク十一回、念心の勝ち越し打を放った背番号19。右翼手としてウイニングボールもつかみ、満面の笑みで歓喜の輪に加わった。

2－2のまま迎えたタイブレークに突入し、十回は両チームとも無得点。だが、十一回に先攻の八学光星にチャンスが訪れた。先頭の竹田智紀が送りバントを決め、1死一、三塁。ここで萩原に打席が回ってきた。

勝負を先かける緊迫した場面。相手の2番手が投じたファーストストライクに手が出ず、ベンチを振り返った萩原に、仲井宗基監督が指示を出した。「強気い」と力強く意気込んだ。

気合を入れ直した萩原は、直後に打ち入ってきたフォークを引き付け強振。打球は一、二塁間を鋭く破り、追う展開に苦しんできたチームが初めて一歩を奪った殊勲打となった。

昨秋の公式戦はノーヒットに終わったものの、指揮官が「スイングが強く、打つ方に関してはレギュラークラス」と認める左の好打者。次戦に向け「いつも通りプレーし、一打を決めたい」と力強く意気込んだ。（千葉崇也）

「打の光星」信じて
スタンドから大声援

7回の同点打に沸く八学光星の応援団

○…「『打の光星』を見せてくれた」。注目の開幕試合で劇的な勝利を飾った八学光星。一塁側のアルプススタンドに陣取った応援団は、歓声が続く展開でもナインを信じて大声援を送り、勝利を後押しした。

五回に先制を許す苦しい展開。それでも、先発の洗平比呂は崩れることなく、9回2失点で投げ抜いた。

硬式野球部2年の宮良神聖さん(17)は「要所を押さえた投球だった」とエースの力投をねぎらった。

好投手を前にしても、諦めることなく粘って打線をつなぎ、延長タイブレークの末につかんだ逆転勝ち。2年の齋藤大翔さん(17)は「光星らしい打撃が戻ってきた。全員野球での勝利だと思う」と今後のチームの活躍を確信していた。

遊撃手でスタメンに名を連ねた阿部隼也の妹さくらさん(16)は、神戸弘陵学園高（神戸市）の1年生。昨夏の女子野球の全国大会で甲子園の土を踏んだ。

守備で貢献した兄の勇姿をスタンドから見守り、「かっこよかった。今まで努力してきたことを知っているので、次は打撃でも結果を残してほしい」とエールを送った。

デーリー東北新聞社提供